

## 浅井 建爾

Vol

7

\*町(マチ)と町(チヨウ)の数

都道府県名	町の数	町(マチ)	町(チヨウ)
北海道	130 (154)	1 (1)	129 (153)
青森	22 (34)	19 (33)	3 (1)
岩手	16 (30)	6 (10)	10 (20)
宮城	21 (59)	12 (21)	9 (38)
秋田	9 (50)	6 (50)	3 (0)
山形	19 (27)	18 (26)	1 (1)
福島	31 (52)	31 (52)	0 (0)
茨城	10 (47)	10 (47)	0 (0)
栃木	16 (35)	16 (35)	0 (0)
群馬	15 (32)	15 (32)	0 (0)
埼玉	29 (38)	29 (38)	0 (0)
千葉	17 (44)	17 (44)	0 (0)
東京	5 (5)	5 (5)	0 (0)
神奈川	13 (17)	13 (17)	0 (0)
新潟	7 (57)	7 (57)	0 (0)
富山	4 (18)	4 (18)	0 (0)
石川	9 (27)	7 (27)	2 (0)
福井	8 (22)	0 (0)	8 (22)
山梨	9 (37)	1 (8)	8 (29)
長野	25 (36)	24 (35)	1 (1)
岐阜	19 (55)	0 (0)	19 (55)
静岡	14 (49)	1 (1)	13 (48)
愛知	24 (47)	0 (0)	24 (47)
三重	15 (47)	0 (0)	15 (47)
滋賀	13 (42)	0 (0)	13 (42)
京都	10 (31)	0 (0)	10 (31)
大阪	9 (10)	0 (0)	9 (10)
兵庫	12 (70)	0 (0)	12 (70)
奈良	15 (20)	0 (0)	15 (20)
和歌山	20 (36)	0 (0)	20 (36)
鳥取	14 (31)	0 (0)	14 (31)
島根	12 (41)	1 (7)	11 (34)
岡山	10 (56)	0 (0)	10 (56)
広島	9 (67)	0 (1)	9 (66)
山口	7 (37)	0 (0)	7 (37)
徳島	15 (38)	0 (1)	15 (37)
香川	9 (38)	0 (0)	9 (38)
愛媛	9 (44)	0 (0)	9 (44)
高知	17 (25)	0 (0)	17 (25)
福岡	34 (66)	33 (65)	1 (1)
佐賀	10 (37)	2 (9)	8 (28)
長崎	10 (70)	0 (4)	10 (66)
熊本	25 (62)	25 (62)	0 (0)
大分	3 (36)	3 (31)	0 (5)
宮崎	16 (28)	0 (0)	16 (28)
鹿児島	23 (73)	0 (0)	23 (73)
沖縄	11 (16)	0 (0)	11 (16)
合計	800 (1,993)	306 (737)	494 (1,256)

\*2009年9月1日現在(カッコ内は1997年4月1日時点)

## 「町(マチ)」と「町(チヨウ)」はどっちが多い？

基礎自治体の市町村のうち、町はどういうわけか「マチ」と「チヨウ」の二通りの読み方がある。では「マチ」と「チヨウ」とでは、どちらの読みが多いのだろうか。平成の大合併が始まる前の一九九七年四月一日時点の数を調べてみると、全国千九百九十三町のうち、「マチ」が七百三十七に対し「チヨウ」は千二百五十六と、「チヨウ」は「マチ」の約一・七倍もある。そこで「マチ」と「チヨウ」の分布状況を調べてみると、面白い現象に気付く。「マチ」は東日本に多く、西日本は「チヨウ」が多いのだ。例えば、関東七都県には二百十八の町があるが、奥多摩町(おくとままち)、箱根町(はこねまち)など、町はすべて「マチ」と読む。ところが近畿七府県にある二百五十六の町は、山城町(やましろちょう)、太子町(たいしちょう)など、すべて「チヨウ」なのである。その徹底ぶりにまず驚かされる。なぜ関東と関西でこうも大きな違い

があるのだろうか。これを東西文化の違いから生じたものと簡単に片付けてしまうわけにもいかないだろう。というのも、東日本にある北海道は百五十町のうち、いかめし弁当で有名な森町(もりまち)を除く百四十九町が「チヨウ」と読む。いっぽう、九州にある熊本県は六十二町すべてが「マチ」だし、福岡県や大分県も「チヨウ」より「マチ」のほうが圧倒的に多い。東西文化の違いというだけでは、この説明がつかない。ただ言えることは、各県ごとで、町を「マチ」と読むか「チヨウ」と読むか、統一が図られたものとみられる。「マチ」と「チヨウ」が混在している県は、末端まで県の方針が徹底しなかったのだろう。

それはさておき、平成の大合併で、町の数は一激減して八百になった(二〇〇九年九月一日時点)。「マチ」が三百六であるのに対し、「チヨウ」は四百九十四。依然として「チヨウ」のほうが優勢だが、「チヨウ」の減少率のほうが高かったのは、西日本で合併が進展したからにほかならない。

平成の大合併では不思議な現象も起きている。というのは、それまで「マチ」を名乗っていた自治体が、合併したのを機に「チヨウ」に変更したところがあるのだ。例えば、青森県の

南部町(なんぶまち)と名川町(ながわまち)、福地村の三町村が合併して誕生した新自治体名は「南部町(なんぶちょう)」だし、百石町(ももいしまち)と下田町(しもだまち)が合併して誕生したのは「おいらせ町(おいらせちょう)」であった。このように、「マチ」から「チヨウ」に変更した自治体が各地で見られた。「マチ」の空白県が十九県から二十二県に増加しているのに対し、「チヨウ」の空白県は十三県から十二県に減少しているのがそのよい証拠だろう。だが、宮城県では小牛田町(こごたちょう)と南郷町(なごうちょう)が合併して美里町(みさとまち)が誕生したように、「チヨウ」から「マチ」に変えたケースもあった。

いずれにしても、「市」はすべて「シ」で統一されているのに、「町」は「マチ」と「チヨウ」の二通りの読みがあるというのはなぜなのか。語呂の善し悪しだけでもなさそうだが。そういえば「村」も、ほとんどの地域では「ムラ」と読むが、九州や中国、四国など西日本の一部の地域では「ソン」と読む自治体もある。読谷村(よみたんそん)、中城村(なかぐすくそん)など、沖縄県の「ソン」は有名である。こうしてみると、東西文化の違いが、地名にも大なり小なり影響しているのかもしれない。